



製造した漬物などに異物が混入していないかエックス線検査をする「たべたがり」工場。新たな雇用創出が期待されている＝長岡市小国町下新田

小国 農業生産法人「たべたがり」

元縫製工場で野菜加工

長岡市小国地域で操業を停止していた元縫製工場が今年春、同市越路地域に本社がある農業生産法人「たべたがり」の工場として生まれ変わった。工場は新たな雇用が期待される場となっただけでなく、地元産の野菜

を加工し、付加価値も生み出している。

生協の注文カタログに掲載された。

工場で生産された切り

「たべたがり」の小林

干し大根、原木シイタケなどの乾燥野菜は県内の大手スーパーに出荷し、

首都圏からも引き合いが

商品が売れば雇用を生かせる」と強調する。

「たべたがり」の小林社長は「いずれは関西や首都圏に売り込んで売り上げを伸ばし、交代制にして工場を動かしたい」と力を込める。

た。工場は新たな雇用が期待される場となっただけでなく、地元産の野菜

の漬物についても総合

たべたがりの持つ販路

問い合わせは「たべたがり」、02558(89)7741。

は工場のある地元、小国の野菜生産者からも期待されている。たべたがりにはナスを納入したことのある「農事組合法人よこさわ」の広田忠俊さん(60)＝同市小国町横沢＝は「農家にとって販路をどうつくるかが一番の課題。出荷する場所の選択肢が増えるのはいい話」と期待を寄せる。

けでなく、地元産の野菜

の漬物についても総合

たべたがりの持つ販路

問い合わせは「たべたがり」、02558(89)7741。